

たちばな



令和6年10月31日
墨田区立立花幼稚園
園だより11月号



立花幼ホームページ

言葉の獲得

園長 宮田 宏子

先日、絵本作家のせなけいこさんが御逝去されたというニュースが流れました。『ねないこだれだ』、『おばけのてんぷら』など、多数の作品が今も子どもたちに愛されています。その数日前には、『ぐりとぐら』、『いやいやえん』、『そらいろのたね』などの作品で有名な、児童文学作家・作詞家中川李枝子さんの訃報もありました。私にとっては、どれも思い出の多い絵本です。これからたくさん子どもたちに読み継がれていくことでしょう。

幼稚園では、毎日のように絵本の読み聞かせを実施していますが、子どもたちは、本当に絵本や物語が大好きです。読み終わったそばから、「楽しかった」「もう一回見たい!」「また読んで」と声が上がります。そして、もっと大好きなのが、毎月の「カンガルー図書館」(親子読書タイム)です。お家の方の膝の上で見る絵本、温かく穏やかな自分だけに聞こえる声で読んでもらう絵本、時々「おもしろいね」と顔を見合わせながら見る絵本…カンガルー図書館では、いつもほんわか温かい時間が流れます。就学して文字を覚えるようになると、子どもが自分で読むことが増えてきます。幼児期には、親子で絵本を楽しむ、この豊かで幸せな時間を、たくさん過ごしてください。

さて、絵本との出会いは、「想像」と「言葉」との出会いです。想像上の世界に思いを巡らせたり、登場人物の不思議な体験にわくわくしたり、自分の体験と結びつけて楽しさや悲しみ、喜びや悔しさに共感したりすることができます。そして、絵本を通して、様々な言葉の使い方や意味、表現の仕方に出会い、言葉の獲得にもつながります。

では、絵本だけで言葉が獲得されていくかと言うと、そうではありません。言葉は、絵本を含む様々な経験や実体験、身近な人との関わりを通して、次第に獲得されるものです。うれしい、悔しい、涼しい、眠たいなどの言葉は、体験や関わりなしには獲得できません。まだ言葉の分からない赤ちゃんに「美味しいね」「眠いね」「高い高い」など言葉を掛ける大切さは、そこにあります。ですから、言葉の獲得において幼稚園で大切にしたいのは、まず「聞くこと」「話すこと」です。すると、そこには必ず気持ちを通わせたい“相手”が必要になります。自分の発したことを、相手がうなずいたり言葉で返してくれたりすることで、気持ちが伝わり合う喜びを感じ、言葉を獲得していくのです。5歳児さくら組さんからこんな言葉が聞こえてきました。「とりあえず、これ先にやっちゃおう!」…“とりあえず”なんて言葉、どうやって獲得したのかしら、と驚かされます。言葉によって、ものの見方や考え方も確かなものになっていきます。そして、5歳児の後半にもなると、文字へも興味が出始め、「読むこと」や「書くこと」が、子どもたち自身の関心や必要感として、遊びや生活の中に入ってくるようになります。

一方で、人との関わりでは、見つめる、うなずく、微笑むなど、言葉を使わない関わり方も大切です。相手が言葉で伝えなくても、相手の気持ちに気付く、押し量などの力も身に付けてほしいと思っています。そんなことも念頭に置きながら、子どもたちには、人と心を通わせることを通して、「言葉」に対する感覚を豊かにしてほしいと願っています。

これからも、絵本に触れる機会や伝え合いの機会を大切に、子どもたちに正しく美しい言葉を、そして適度に心地よい言葉のシャワー(土砂降り注意! ガミガミと多すぎる言葉は逆効果です)を浴びせてまいります。

今月のねらい

【4歳きく組】

- 遊びの中で、自分なりに考えたり、取り入れたり、つくったりして、実現させていくことを楽しむ。
- 自分の思いを伝えたり、友達の思いを聞いたりしながら、友達と同じイメージの中で一緒に遊ぶことを楽しむ。

【5歳さくら組】

- 自分なりに役割を意識したり、必要なことを考えたりしながら行動する。
- 友達と共通の目的に向かって工夫したり協力し合ったりして、やり遂げる達成感や満足感を味わう。



